

## 第6章 資料・その他

令和4年度 就学前教育実践の手引き 改訂の経過

	年月日	会議名	案件
令和4年	4月26日	第1回 学識経験者助言会議	今後のスケジュールについて・事務局より内容説明等
	5月31日	第2回 学識経験者助言会議	手引き改訂内容についての話し合い及び助言
	6月28日 7月1日	第3回 学識経験者助言会議	手引き改訂内容について個別助言会議 (大阪人間科学大学・千里金蘭大学にて)
	7月14日	第4回 学識経験者助言会議	手引き改訂内容についての話し合い及び助言
	8月30日	第5回 学識経験者助言会議	手引き改訂内容についての話し合い及び助言
	9月16日	第1回 小学校長及び教諭による 手引き意見交換会議	幼小連携・接続期に関する項目についての 意見交換及び内容作成
	9月16日	第6回 学識経験者助言会議	小学校委員との顔合わせ・手引き改訂内容 についての話し合い及び助言
	11月1日	第7回 学識経験者助言会議	手引き改訂内容についての話し合い 及び助言
	11月15日	第2回 小学校長及び教諭による 手引き意見交換会議	幼小連携・接続期に関する項目についての 意見交換及び内容作成
	11月16日	第1回 公私立保育園・認定こども 園主任・主任保育士等会議	手引き改訂内容についての議論
	12月22日	第1回 臨時市内公私立園(幼稚園 含む)副園長・主任等会議	手引き改訂内容についての議論
	12月23日	第8回 学識経験者助言会議	手引き改訂についての話し合い 及び助言
令和5年	1月10日	第2回 臨時市内公私立園(幼稚園 含む)副園長・主任等会議	手引き改訂内容についての議論
	1月17日	第9回 学識経験者助言会議	手引き改訂についての話し合い 及び助言
	1月31日	第3回 小学校長及び教諭による 手引き意見交換会議	幼小連携・接続期に関する項目についての 最終調整・確認
	2月3日	第10回 学識経験者助言会議	手引き改訂内容の最終調整・確認
	2月9日	第2回 公私立保育園・認定こども 園主任・主任保育士等会議	手引き改訂内容の最終調整・確認

令和4年度 就学前教育実践の手引き改訂における、各作成会議助言者・参加者指名・団体名  
(敬称略・五十音順)

区分	氏名	所属団体等
学識経験者(助言者)	岡田 雅樹	大阪人間科学大学 人間科学部 子ども教育学科長 教授
	岸本 みさ子	千里金蘭大学 生活科学部 児童教育学科 准教授
市内公立園関係者	松原 龍子	摂津市立べふこども園 園長(市立園園長会代表)
	市村 千晶	摂津市立とりかいこども園 園長
	山田 律子	摂津市立子育て総合支援センター 園長
	中井 彩綿子	摂津市立とりかいこども園 主査(保育教諭)
市内小学校関係者	奥野 友紀	摂津市立味舌小学校 校長
	池上 真世	摂津市立摂津小学校 教諭
	讃井 由香	摂津市立味生小学校 教諭
	白石 りょう	摂津市立烏飼東小学校 教諭
	島並 千恵	摂津市立烏飼北小学校 教諭
	八木沢 知輝	摂津市立烏飼北小学校 教諭
教育総務部	宗木 俊憲	学校教育課 主幹兼指導主事
作成協力	市内私立幼稚園・保育園・認定こども園の園長先生方 市内私立幼稚園・保育園・認定こども園の主任等の先生方 市立小中学校校長会 摂津市保育連盟 摂津市立児童発達支援センター 教育委員会事務局教育総務部 学校教育課・教育支援課 教育委員会事務局次世代育成部 子育て支援課・家庭児童相談課・出産育児課	
作成事務局	教育委員会事務局次世代育成部 こども教育課	

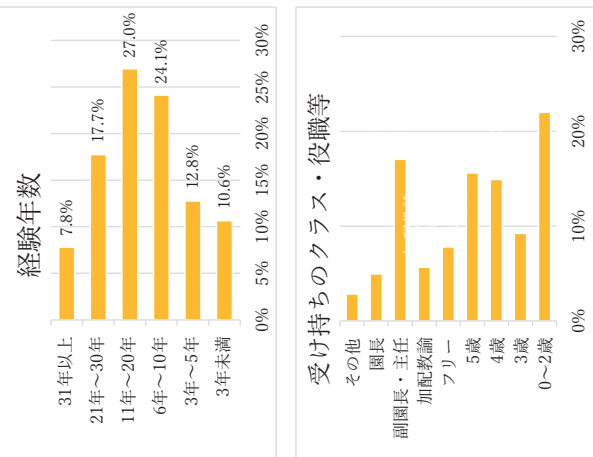
【参考文献】

- \* 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育・要領（平成29年度告示文部科学省・厚生労働省・内閣府）
- \* 小学校学習指導要領(平成29年度告示 文部科学省)
- \* 幼児期運動指針(平成24年度 文部科学省)
- \* 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議(第1回)資料3(平成22年度 文部科学省)
- \* 最新版幼児期の運動あそび～理論と実践～(平成21年度 高木信良 共著：手引き助言者 岸本みさ子他 不昧堂出版)
- \* 幼児期からのアクティブチャイルドプログラム(平成27年度 公益財団法人日本スポーツ協会)
- \* 幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)(令和4年度 文部科学省)
- \* 幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの参考資料(初版)(令和4年度 文部科学省)
- \* 横浜市接続期カリキュラム平成29年度版(横浜市こども青少年局・横浜市教育委員会)
- \* 育ちを学びにつなげるために(平成25年度 摂津市支援教育サポート委員会ワーキング会議)
- \* スタートカリキュラム学びの接続モデルリーフレット(平成29年度 大阪府幼児教育センター)
- \* スタートカリキュラムスタートブック(平成26年度 文部科学省)
- \* 幼児教育部会における審議のとりまとめ(平成28年度 文部科学省)
- \* 運動神経がよくなる本(平成23年度 中村和彦 マキノ出版)
- \* 10の姿で伝える！要録ハンドブック(平成30年度 監修：大方美香 (株)学研プラス)
- \* 10の姿を育む保育(平成30年度 公益財団法人 幼少年教育研究所 チャイルド社)

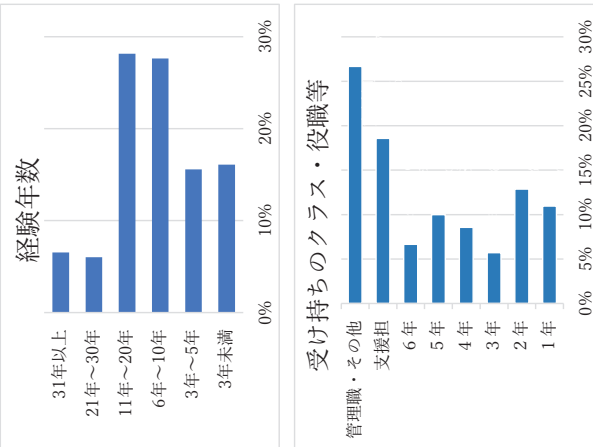
## 【アンケート集計結果概要】

対象者は、小学校教員及び管理職(以下、『小学校教員』と表記)及び5歳児担当経験のある就学前教育施設職員(以下、『就学前教育施設職員』と表記)。小学校教員の有効回答数は207件(回答率約71%)、就学前教育施設職員の有効回答数は143件(園にて5歳児担当経験を有する職員等に配布要請したため、回答率は不明)

### 【就学前教育施設職員】



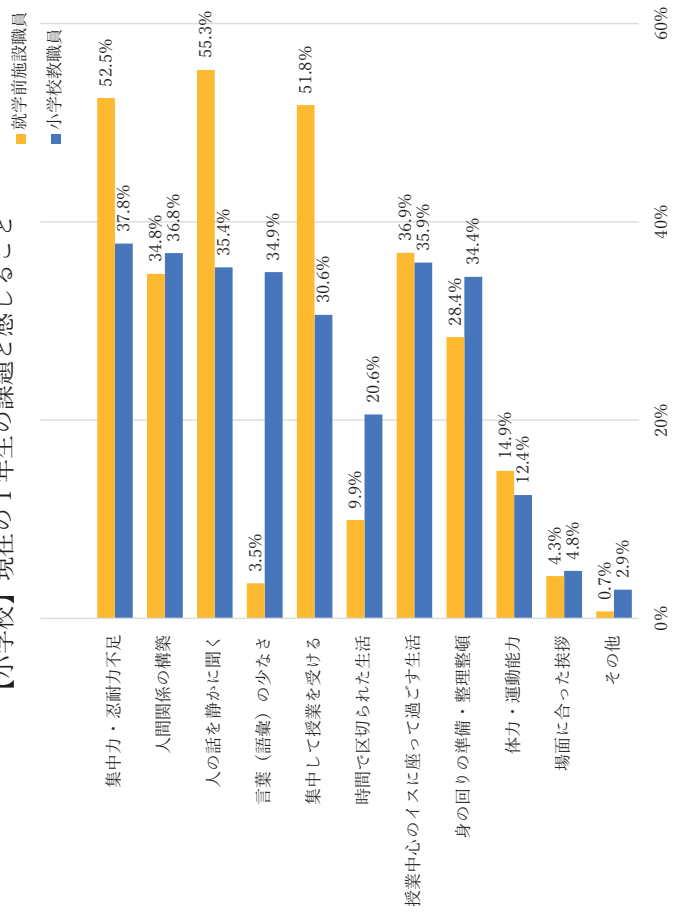
### 【小学校教員】



## 【1. 入学時の課題】

【就学前教育施設】 現5歳児の入学後の課題になると感じること

【小学校】 現在の1年生の課題と感じること



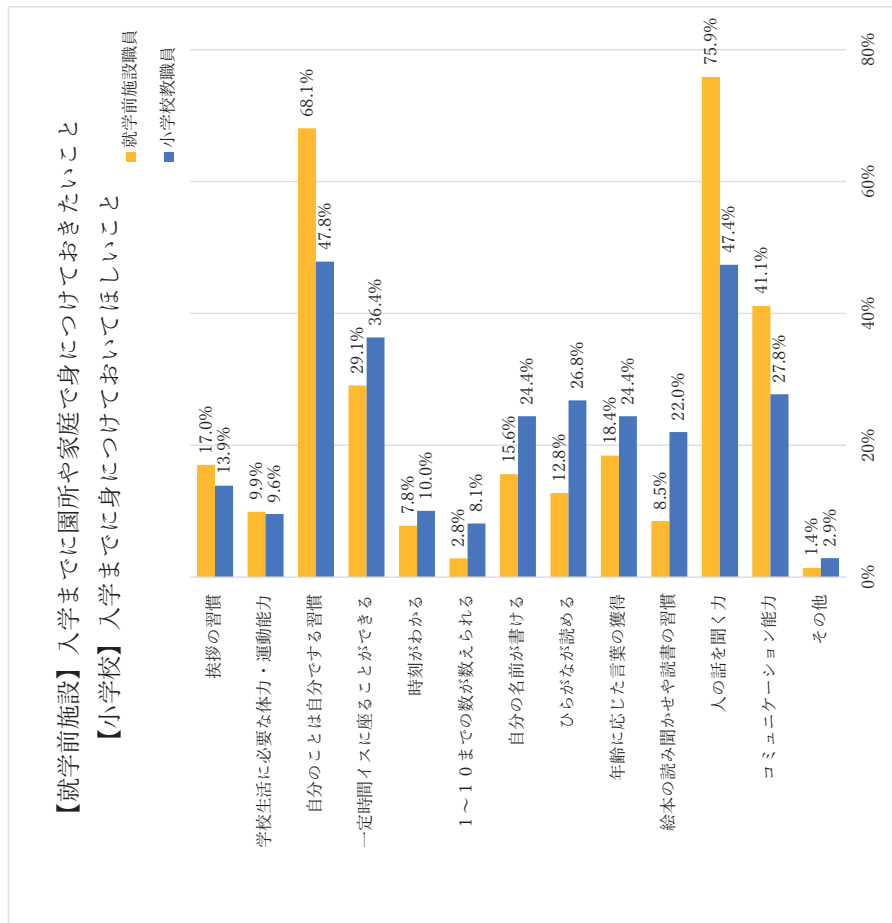
(就学前教育施設)『現5歳児の入学後の課題になると感じること』

(小学校)『現在の1年生の課題と感じること』の項目で調査。(3つまで選択可)

この項目では、小学校教員の方が項目間の差が少なく、対して就学前教育施設職員の方は、『集中力・忍耐力不足』『人の話を静かに聞く』『集中して授業を受ける』の3項目が圧倒的に高い割合を占めています。

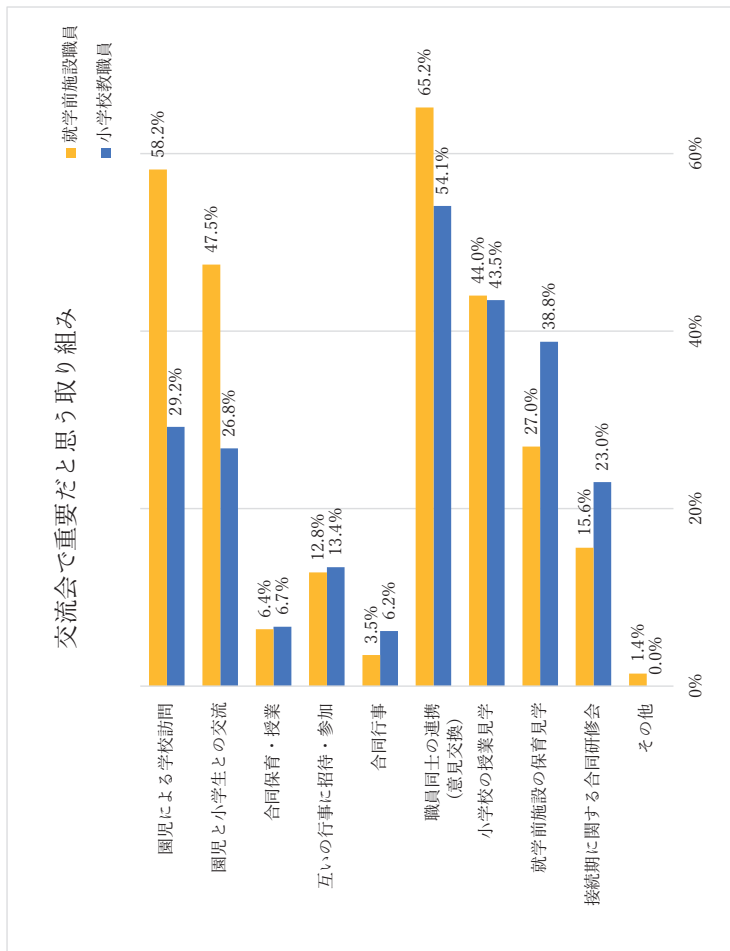
双方とも課題として、非認知能力の項目が多く挙がっている中、『語彙の少なさ』の項目に関しては、小学校と就学前教育施設職員間で課題認識に大きく差が出ています。

## 【2. 入学までに身につけておきたい力】



(就学前施設)『入学までに園所や家庭等で特に身につけておきたいこと』  
 (小学校)『入学までに特に身につけておいて欲しいこと』の項目で調査。(3つまで選択可)  
 双方とも、『人の話を聞く力』と『自分のことは自分でできる習慣』の2つの割合が突出して高くなっています。続いて『コミュニケーション能力』『一定時間イスに座ることができる』の項目が続きます。

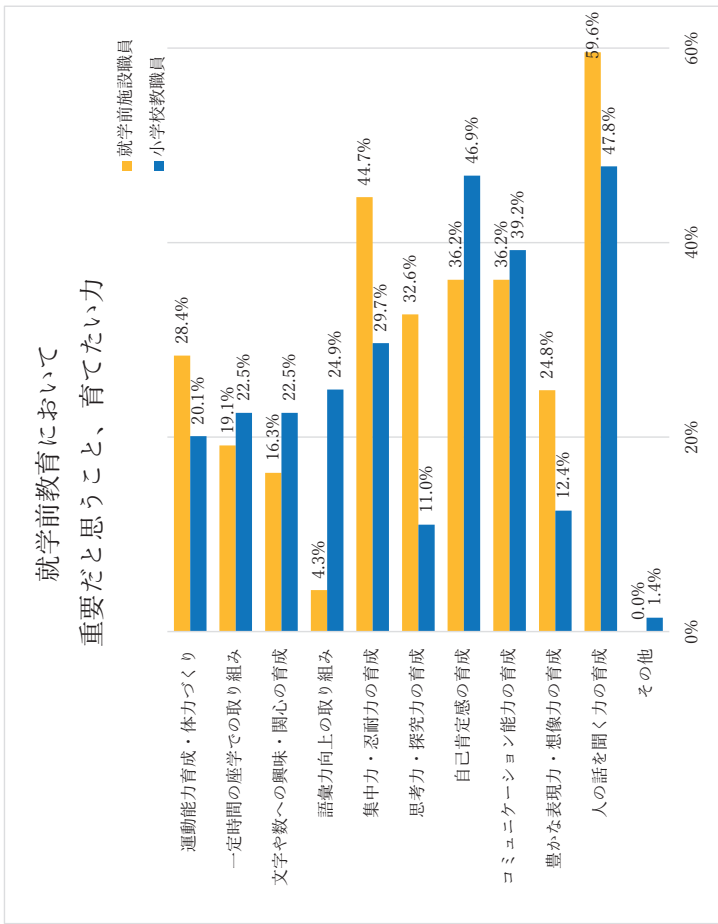
## 【3. 幼小交流会】



保育所・幼稚園・こども園の5歳児と小学校で例年実施している、就学前施設と小学校の連携事業である交流会の内容について、重要だと思う項目を調査。(3つまで選択可)

双方ともに高い割合で選択した項目は、『職員同士の連携(意見交換)』『小学校の授業見学』『就学前施設の保育見学』でした。(1ページ下段の『保育・授業参観経験の有無』において、双方職員の約半数が、したことが無いと回答)  
 そして、就学前施設職員のみが高い割合で選択した項目は、『園児による学校訪問』『小学生との交流』でした。自由記述意見の中にも、就学前施設職員からは、学校訪問を重要視する意見が多く挙げられています。

【４．就学前教育で重要なこと、育てたい力】



就学前教育において特に重要だと思うこと、育成が必要だと感じる力・取り組みの項目を調査。（３つまで選択可）

ここでも、『人の話を聞く力の育成』『自己肯定感の育成』『コミュニケーション能力の育成』『集中力・忍耐力の育成』等、非認知能力に関する選択が高い割合を占めています。また、『思考力・探求力の育成』『語彙力向上の取り組み』に関しては、小学校と就学前施設の職員間で課題認識に大きく差が出ています。

【まとめ】

アンケートの結果、本市の就学前教育の充実には非認知能力の育成が重要であるとの意見が非常に多くみられました。また、認識の差が大きい項目もあることから、まずは、職員同士の相互参観や意見交換会、合同研修等を通して、園児・児童の普段の生活を知り、互いの思いを知る機会を設けていきたいと考えます。

【その他自由意見】

幼小交流会・合同研修について	
《就学前施設職員》	
* コロナの影響で保幼小の交流がなく子どもたちの機会の損失は大きい。コロナ禍でも可能な交流を是非実施して欲しい。	
* コロナ禍で今は難しいが、交流することや施設に行くことでイメージが具体になり、前向きな気持ちで就学できるので大切だと思う。	
* 進学後の子どもの様子を知る機会があれば嬉しい。コロナ禍で難しいのは重々承知の上だが、小学校の見学などをできればと思う。	
* 学校探検はこれからも続けて欲しい。	
* 交流も必要だが、小学校がどういう所なのかわかるような見学や体験ができるといいと思う。	
* コロナ禍ではあるが、小学校との交流は、職員・園児共に行える方法はないか、できるだけやれる方向で模索していければ嬉しく思う。	
* 小学校見学は子どもにとっても保育士としても有難い機会。園に戻って振り返りもする。	
* 小学校との交流を通して、子どもたちの次の一歩である小学校への不安を取り除き、期待を持って就学できるような環境づくりを希望する。	
* 互いの取り組みが見えにくく段差を感じる。スロープのように接続できるようなこまめな連携が必要。	
* 就学前施設では小学校を意識して保育士、小学校では就学前教育を意識した授業をしていく。そのためには、それぞれが理解しておかないといけない。	
* 5 歳児の様子を知ってもらえる機会をもっていたらいいと思う。	
* 5 歳児の段階で、就学前までにどのようなことを身につけられればいいのか、具体的に知ることができる機会があればより良い。	
* より良い取り組みや課題等を共有して、今後の取り組みにつなげたい。	
* ○○ができていて欲しい等、授業を円滑にすすめるにあたり、何を育てておいて欲しいか知りたい。	
* 子どもだけでなく職員の職員交流・研修も必要かと考える。	
* 就学前施設から小学校へ切れ目ができないように引継ぎするために、その前段階で保育者と教師の研修が必要。	
* 教師の研修等もち、それぞれの子どもたちの姿や課題などをすり合わせておく場が必要。	
* 職員で意見交流する時も、話し合いは必要だが効率良くやりたい。	



<p>《<b>小学校教員</b>》</p> <p>*就学前施設で伸び伸び育てられても、小学校のカリキュラムの中で進めていくことにギャップを感じて園児も。だからこそ職員との交流だけでなく定期的な参観が必要。</p> <p>*保幼小中教育の連携推進を願う。</p> <p>*子どもがすんなりと学校生活になじめるよう、幼小連携の機会を増やしたい。</p> <p>*交流が少なく不安。各校で交流に差があるように感じる。中学校区で交流内容を統一しては。</p> <p>*就学前～中学・高校までの縦のつながり、一人の子どもを見ていく地域の連携が大事であると思う。</p> <p>*職員が互いに見学し、調整を行う必要がある。</p> <p>*民間の就学前施設との連携が必要。</p> <p>*小中連携は活発に行われているが、就学前施設との連携は一部の教員だけの仕事となっている。</p> <p>双方の施設で子どもたちがどのように学び、生活を送っているのか、実際の様子をまずは教職員間で見聞きできる機会が必要。</p>	<p>就学前教育のありかた・接続期の保育について</p> <p>《<b>就学前施設職員</b>》</p> <p>*入学までに、最低限身につけておいてほしいことがあれば教えて欲しい。(字の読み書き・運動等)</p> <p>*入学後の1年生ができないことで困った事例などを具体的に知りたい。</p> <p>*学校生活がスムーズになるための配慮をして下さっていることはありがたいと思うが、手厚すぎることのないようにと願う。</p> <p>*良い取り組みや課題などを共有して今後の取り組みにつなげたい。</p> <p>*体を動かしながら授業されていたり、一時間座りっぱなしにしない工夫した授業をされていて、段差を緩やかにして下さっていると感じている。</p> <p>《<b>小学校教員</b>》</p> <p>*静かにする、一定時間席に座る等は、小学校に入ってから身につけるべき力だと考えるため、就学前教育では、さまざまな人や物などと関わり、想像力や表現力・人間性などを育んでほしいと思う。</p> <p>*小学校の立場からすると、迎える就学前施設も複数あり、それぞれの教育方針も異なる現状もある。</p> <p>摂津市としての大きな枠組みがあればなお有難い。現実的にはたやすい事ではないと承知しているが、円滑な接続のため事務局が動き出されたことはとても心強く、現場でも協力は惜しまない。</p> <p>*見えない力(非認知能力)の育成が大切だと思う。</p> <p>*時間通りに行動する習慣を身につけさせ、人の話を聞く力の育成にご注力いただきたい。</p>
---	---

<p>*本校では今年度からスタートカリキュラムをスタートさせた。たくさん成果と課題が見つかったように思う。</p> <p>*小1に園の子どもを『合わせる』のではなく、園での学びを基礎として、小1の学びを『積み上げる』感覚が大事と感じた。小学校の前倒しと取れるような方針が話題になっていったが、このような考えをもたないと子どものためにならないと個人的には思う。</p> <p>*保育には保育の役割がある。早期からの文字・数への取り組みは受け入れられない。できない児童にとっては自己肯定感を下げかねない。遊びの中でどのように扱い、どのような資質を育むのか等、確認すべきことは多くあり、就学前の文字・数字等の指導には慎重であるべき。</p> <p>*ひらがなの読み、言葉や数への興味を育ててほしい。</p> <p>*マークではなく、自分の名前と1～10までの数字は書けるようになって欲しい。</p> <p>*子ども間のトラブルを聞き取ると、人間関係づくりに大きな課題を感じる。1対1は保でも、そこへもう一人関わりと関係性が崩れるケースが多い。学校でも表面的な関わりに終わらない、子どもたちの集団作りを見直す必要があると職員でも議論を始めたところ。</p> <p>*鉛筆の持ち方を間違って覚えてそのまま入学すると、後で修正が大変。</p> <p>* (小学校入学後)鉛筆の持ち方や姿勢がなかなか身につかない。補助キャップ等をつけ、色塗りや迷路等の遊びをしていただけると嬉しい。</p> <p>* ひらがな学習会等に参加すると、スタートカリキュラムやくぐらせ期の大切な学びがわかる。</p> <p>*絵や映像では理解できるが、文字を読んで想像する力が弱い気がする。</p> <p>*言語は、声に出すことから始まる。しりとりや何気ない会話が大切と感じる。</p>	<p>その他意見</p> <p>《<b>就学前施設職員</b>》</p> <p>*要録等の書類に目を通して欲しい。(要録の必要性)</p> <p>《<b>小学校教員</b>》</p> <p>*1年生を担任していた時は、2時間ほどトイレ休憩が無くても過ごせる、トイレに行きたいと主張できる、自分の名前だけはひらがなで書ける、等ができると助かった。</p> <p>*引き継ぎのシステムを周知。</p> <p>*引き継ぎが必要な所はきちんと引継ぎし、保護者が安心して入学できるようにしたい。</p> <p>*幼小連携として、指導計画等の引き継ぎ方も合わせたほうがいいのでは。</p> <p>*親学習・家庭教育の機会、学力や知力に対する関心を高める活動が必要。</p> <p>*幼児期に親と子の適切なかわりが必要。</p>
---	---